

1. 今年度研究テーマ

「自立に向けた学習内容の共有化」

2. はじめに

昨年度の研究テーマは、「一人ひとりの自立を考える～継続的な支援をするために～」でした。3年前の学校テーマである、学習環境や学習内容、効果的な支援の「整理」（平成26年度）から始まって、実践から得られた支援の手立てを教員間、更には教員から保護者へと「つなげる」（平成27年度）ことに力を注ぎ、昨年度は子どもたちの自立に向けて何が大切なのかを改めて「考え」、「検証」し、「情報」として伝えていくことを研究の柱に据えました。

「一人ひとりの自立」を大きなテーマとして掲げて取り組んできた3年間の中で、それぞれの実践から子ども達にとっての効果的な支援が数多く生み出され、支援の手立てとして『せやの支援』にまとめられてきました。目の前の子も達に有効な支援はもちろん大切ですが、その子がそれまでに受けてきた支援と現在の支援に妥当性、関連性、発展性が見られるのか、またこれから進んでいく先での支援とどう繋がっていくのかという視点も必要です。その意味からも、学年や学部を越えて「自立」について考えを深め、共有していくことが、これまでの課題として挙げられ続けてきました。また、他学年、他学部の実践を見合い、授業内容やねらい、支援の方法について校内で協議するだけでなく、外からの客観的な視点を取り入れて、協議や研究をより深めていくことも必要ではないかとされてきました。

今年度の学校目標は「重点化」と「スリム化」です。子ども達にとって「わかる授業」とは何かを引き続き考えて実践する中で、学習内容の整理を行い、自立と社会参加に向けて小・中・高12年間を通した一貫性のある教育を推進していこうとするものです。

そこで、今年度の本校での研究は子ども達の自立に向けた学習内容を、『生活』・『生活単元』の指導を通して共有し、考えていくこととしました。更には、総合教育センターから齊藤佳子先生を2回の公開授業（11月と1月）に招き、外からの視点も取り入れることにしました。慌ただしい日々の中、研究の時間をつかって授業を見直し、どうしたら子ども達にとってわかりやすい授業が展開できるのか、そのためにはどのような支援を取り入れることが必要なのか、子ども達にとって自立に必要な力を育てるとはどういうことかを話し合い、みんなで授業を作り、授業を改善していくことを目指しました。そして、日々の実践が研究に繋がり、研究によって情報共有がなされ、よりよい授業、支援が新たに実践されていくサイクルが展開されることをねらいました。

3. 研究の目的

- 1) 各学部・学年がどんな学習内容で授業を行っているかを情報共有する。
- 2) 自立という視点で小・中・高の繋がりを考えながら、授業内容を整理、改善する。

4. 研究の方法

学部ごとの研究グループを基本の単位とし、年間 10 回の校内研究日を設け、各学部でテーマに沿った研究に取り組みました。小学部と中学部は学年単位を軸にしましたが、小学部では 1～3 年の低学年と、4～6 年の高学年グループに分かれての協議も併せて行いました。高等部では、学年縦割りのグループの中で研究を進めました。また、2つの分教室では、これまでの研究の流れを引き継いだ内容で研究に取り組みました。

各学部、分教室における具体的な研究テーマは、以下の通りです。

小学部	「生活の授業における、自立に向けた学習内容の共有化」
中学部	「生活単元の系統化に向けた内容の整理」
高等部	「生活単元における、自立に向けた学習の内容整理」
大和東分教室	「3年間を見通したカリキュラム及び教材・指導案の整理 ～数学・社会を中心に～」
大和南分教室	「指導内容の整理と実践の共有」

5. 研究の概要

小学部では、学びの基礎となる段階の子ども達にとっての自立はどういうものなのか、また中学部、高等部へと繋がっていくことを踏まえて、小学部段階で身に付けておきたい力とは何かという視点を持って、『生活』の授業を考えていきました。

学年を越えて、1～3年の低学年グループと4～6年の高学年グループとで共有、協議する場を設けたことで見えてきたものもあり、そこから自分の学年に立ち戻って授業を考え、自立についての考え方も深めていくことができました。

中学部では、小学部と高等部の間に位置する学部として、小学部での指導を踏まえ、更には次の高等部での指導に生かされていく授業実践を目指しました。『生活単元』の指導内容について本校中学部の教育課程で設定されている4つのカテゴリー（社会、理科、職業、家庭）に分けるとともに、それぞれの授業のねらいを3つの発達段階（ステージⅠ～Ⅲ）に分けて整理した表も作成し、中学部における『生活単元』の指導の系統性を考えていく際の土台ができあがりました。

高等部では、卒業後には社会に出ていく子ども達を見据えて、『生活単元』の中の「自立に向けた学習」を①将来に向けて②健康な身体③食育というカテゴリーに分け、学年縦

割りの指導グループごとに研究を進めました。子ども達が向かう、社会参加という次のステージにスムーズに移行するために身に付けるべき力を、3年間の中でどのように考え、また支援を打ち立てていくのかという視点から、研究を深めました。

2つの分教室は、小中学部や高等部の研究スタイルとは異なりますが、それぞれの分教室が最優先とする課題をテーマに設定して取り組みました。

大和東分教室では、昨年度に引き続き分教室3年間の指導の系統を整理することをねらいとして「教材・指導案の共有化」に取り組みました。はじめに、教科学習が自立した社会生活へ向けてどのような位置づけにあるかを視覚化し共有化を図りました。次に、各学年で進められている単元の一覧表を作成し、資料の整理、情報交換、検討を行いました。

大和南分教室では、ほとんどの生徒が就労を希望し、将来一人暮らしを望むものも多くいます。このような中、昨年度までの研究では「職業教育」をテーマに取り組んできました。今年度は『職業』以外の教科学習において、生徒の「自立」に向け、どのような題材が必要か、どのような手立てが効果的か検討し実践していくこと、またそれらを収集、整理し共有することをねらいとして取り組みました。

6. 今後の課題

今年度、本校では『生活』・『生活単元』の中で「自立に向けた学習内容の共有化」をテーマとして掲げました。どの学部も『生活』・『生活単元』の学習内容の整理に取り組み、学年間のつながりを確認したり、発達段階別のねらいを検討したりしました。そして、それぞれの学年において、目指す自立の力について話し合いを行い、授業実践を重ねながら考察を深めてきました。学習内容の整理の作業を進める過程では、改めてカテゴリーの分け方や他教科との関連についての課題が一つの話題としてあがりました。限られた時間の中でも、今年形にした成果をここで終わらせずに、次年度へ繋げることが大切だと考えます。まずは、学部の中でより系統化された学習内容を確認するために、教育課程とも連携して更なる整理と検討を加えていきたいと思えます。

さらに、今年の研究をベースにして、学年だけでなく学部を越えた共有化を深め、学部間の系統性へと繋げていくことも課題だと考えられます。学部間の系統性とはつまりは、子ども達が学ぶ小・中・高12年間のスパンの中で、『生活』・『生活単元』における自立を考えることとなります。

お互いに授業を見合う形での公開授業形式を行うようになってから4年目になります。小学部はその先の中学部、高等部への関心が比較的高く、中学部では次の高等部への繋がりを強く意識する傾向にあります。では、高等部ではどうでしょうか。ある程度子ども達の姿、持っている力が確立され、次の社会参加を目指す指導の中、前段階の中学部、小学部への意識がやや持ちづらいつらいつらという側面はないでしょうか。同様に、中学部では小学部での指導についてどのくらい思いをめぐらせることができるでしょうか。同じ学部内の他学年

の実践を知ることもちろん大切です。しかし、校内での研究に縦の繋がりという系統性を打ち立てていくには、学部を越えて授業を見合い、授業内容や支援の形、目指す自立の力について意見交換を活発に行っていく必要があります。公開授業や協議会の在り方を検討する際には、そのような視点を取り入れていけたらと思います。

そして、大所帯である瀬谷養護学校では教員数も 150 名を超えます。「研究」と一言で言ってもその考え方、受け止め方はそれぞれで異なります。でも、できるだけ皆で同じ方向を向いて、日々の授業実践をよりよいものにするための研究をしていきたいものです。そのような研究を通して、子ども達が将来社会の中で支援を受けながらも、生き生きと生活していくために必要な自立の力を身に付けていってくれたら、それ以上の研究はないのではないかと思います。

最後に、今年行った 2 回の公開授業で高等部 1 年生と小学部 5 年生の授業を中心に、協議会の助言者としてお越しいただいた総合教育センターの齊藤佳子先生に御礼を申し上げます。それぞれの授業評価の中では、工夫された点、よかった点に触れながら、私達が気付かなかった新たな視点での助言もいただき、授業者はもちろん協議会の参加者にとっても大変学びの多い機会となりました。そして協議会では、子ども達の自立に向けて取り入れていくとよい内容についてもお話しいただきました。さらに、他の学年の授業もビデオで見ていただき、子ども達の自立に繋がる指導がたくさん行われていたと講評を頂きました。色々な課題が残された今年度の研究ですが、私達が日々行っていることをもっと形にしてまとめていけば、さらによいものに仕上がっていくとお話しいただいたことは、次年度の研究に向かう自信ともなりました。私達が今できていること、考えていることに、少し違った角度からの助言をもらえたことは、今年度の大きな成果の一つと言えると思います。本当にありがとうございました。次年度も、助言者の先生をお招きし、多角的な視点を得ることで、今後の研究のステップアップを図っていきたいと考えています。

(研究推進チーム 瀧永 理加)

年度初めの全体研究会の場で示した「今年度の研究が目指すもの」の一部を次頁以降に掲載しました。

研究を始める前に

これまでのせやの研究の流れ

- 2013年度

育てたい力と支援の手立て

双方向の支援を目指して

- 2014年度

一人ひとりの自立を考える

支援をつなげていくために

- 2015年度

一人ひとりの自立を考える

継続的な支援をするために

研究の過程で

大事にしたいこと

「活用できること」の優先

「自分たちの言葉」で伝える

「わかりやすさ」を心がける

今年度のテーマ

～グランドデザインより～

重点化

スリム化

学校教育計画の中のキーワード

○「自立と社会参加」に向けて、
小・中・高12年間を通じた
一貫性のある教育の推進

- 学部を超えた課題共有や取組
- 学習内容・指導内容の整理
- 「わかる授業」の実現

今年度の研究テーマ

「自立に向けた 学習内容の共有化」

本校では、生活・生活単位を通して

生活・生活単元学習って何？



「領域・教科を合わせた指導」

- ①日常生活の指導
- ②遊びの指導
- ③生活単元学習
- ④作業学習

実際の・体験的活動をとおして、
現実の生活に生きる力を育む

生活・生活単元学習って何？

- 他の学年、学部ではどういう授業が行われているんだろう？
- 今の授業が、この先子どもたちにもどのようにつながっていくんだろう？
- 将来的に、どういう力が育っていきといいんだろう？



生活・生活単元学習を通して

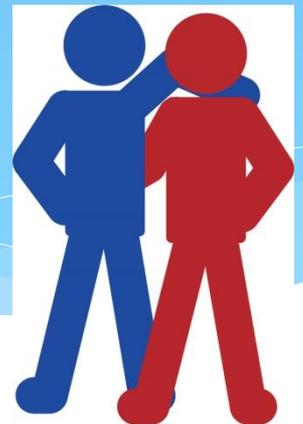
- 各学部、各学年で行われている授業内容について共有する。
- 「自立」という視点で、授業内容を整理する。
- 小中高のつながりの中で整理する。

生活・生活単元学習を通して

- 情報共有 ← * 公開授業を行い、授業を見合う。
- 悩みの解消 ← * 外部講師からの助言を取り入れる。
- 「研究
せや」 ← * 授業の実践をシートにまとめる。

研究の時間をつかって

- 日々の授業内容や子ども達の変化、指導における悩みなどを話し合う。
- みんなで授業を作り、授業を改善していく。
- 3学部ある瀬谷のよさを再確認し、子ども達の自立を12年間のスパンの中で考えてみる。



まず…「自立に向けた学習内容の共有化」という全体テーマをおさえ、

- ①本校では、生活・生活単元でどんな内容で授業をしているか、どんな内容が考えられるかをリストアップする。
- ②出てきた内容から「自立」という視点で学習内容を整理する。
- ③実際に授業を行い、実践報告を行う。



分教室でも、

「自立に向けた学習内容の共有化」
という全体テーマをおさえて…

- ①出てきた内容から「自立」という視点
で学習内容を整理する。
- ②実際に授業を行い、実践報告
を行う。



そして…



- 授業の悩みは、外部講師に助言をもらって改善につなげる。
- 公開授業によって、お互いに授業を見合う。
- 実践の結果をシートにまとめて、「研究せや」とする。

目指すのは、、、
子ども達のためになり、
自分たちのためにもなる「研究」

